

代表質問 自民党こまつ 宮西 健吉(みやにしけんきち) 議員

一括質問

## 当初予算編成で本市の姿が観える！

### ◆令和2年度予算編成について

**Q** 自主財源である市税(税込)を増やすための施策は。

**A** シニアの人たちが、いつまでも現役で社会貢献をしていくことが大事。国、県、市民と力を合わせて産業育成を進めていきたい。

### ◆安宅新地区土地区画整理事業について

**Q** 予算1,757百万円であるが今後のスケジュールは。

**A** 用地買収は3月末に約5割を終え、夏頃に完了予定。令和5年に供用を開始したい。防衛省との協議は。エアターミナルビル改築の用地を確保すべきであると思つが県との協議は。2月27日に県で小松空港のビジョンを策定するため、検討委員会が行われた。航空機利用客の需要確保等を議論していく。

### ◆人口問題について

**Q** 世帯数は、10年間で約5千件増加。世帯と市税の相対関係は。

**A** 世帯数にはアパートへ入居する人等も含まれる。全てが相対関係にあるわけではない。

**Q** 市税と人口の相対関係は。

**A** 市の人口は過去7年間で1%減だが、個人市民税を納付する人は6%増。シニアの活躍など労働の在り方の変化等の影響が大きい。

**Q** 市税と高齢者との関係は。総合して人口減少問題で市の対応は。

**A** 人口流出が多い里山地区に、正蓮寺工業団地や松東みどり学園などを集中的に投資。

全体人口を安定的に増やしていきたい。

### ◆GIGAスクール構想の推進について

**Q** GIGAスクール構想とは。

**A** 子供たち一人ひとりにICTを活用できる環境を整備するための施策である。

**Q** ICT環境整備について。

**A** 今年度中に高速LAN環境を整備、令和5年度までに1人1台のタブレット端末を配備する予定。

### ◆新幹線開業を見据えた小松駅周辺デザインについて

**Q** 小松駅ターミナル推進費9,400万円について。

**A** 駅東西広場に係る実施設計費等である。

**Q** 市が整備する高架下プロムナード構想について。

**A** 石の文化の展示ほか伝統工芸等もあり、どれが一番効果的なのか今後検討していく。

### ◆里山エリアの振興と活用について

**Q** 滝ヶ原アートホテル、大杉地区の江戸古民家の里及び旧西尾小学校活用の基本構想は。管理運営は。

**A** 【滝ヶ原アートホテル】交流人口の拡大に伴い、新たな宿泊施設のニーズが高まっ



ため、古民家を改修して今春から運営するもの。民間の力によりインターネット等で里山の魅力を発信。【江戸古民家の里】古民家を滞在型里山体験施設へ改修。地域住民を加えた民間団体がアクティビティや伝統料理を提供していく。【旧西尾小学校校舎の活用】大学等研究室やレストラン等を整備し、学び・食・農体験ができる活動拠点としてリニューアル。民間事業者を指定管理者として委託予定である。

### ◆広域基幹道路網の整備について

**Q** 国道8号線小松バイパスの4車線化は。

**A** 令和2年内に小杉IC〜千代・能美IC間1.3kmが4車線化される見通し。早期整備に向け、国に強く要望していく。

**Q** 都市計画道路幸八幡線の整備は。

**A** 全長3,520mのうち、残区間は950m。今回、3月補正と当初予算合わせて3億円を計上した。

### ◆会計年度任用職員制度導入について

**Q** 制度の目的は。制度運用について何がどう変わるのか。

**A** 予算項目を物件費から人件費に組み替えることができ、市職員と同様の勤務条件となる。



竹田 良平(ただけりょうへい)議員

一括質問

## 地域公共交通および今年度の学校教育について

### ◆地域公共交通について

**Q** 日野自動車(株)等と連携した実証実験について、利用者数の推移は。また、得た知見を今後どのように活かしていくか。

**A** 矢田野地区での実証実験では公民館等から最寄りのスーパー、粟津駅間を1日2往復、週4日運行。前半期間は予約不要で平均24名、後半は電話による予約制で平均11名利用。小松鉄工団地では小松駅間を朝1便、夕方2便運行、平均12人。実験で得られた情報やノウハウは他の地域での取り組みに生かすとともに、引き続き日野自動車(株)等と連携したデマンド交通実験を行い交通エリア拡大につなげたい。

**Q** 今年度、こまつ地域交通プラン(仮)を策定するが、既存のバスやタクシーなど交通事業者に求める役割は。

**A** 中長期的な視点で市民や来訪者の利便性の確保及び安全かつ効率的な運行手法を共に考えるパートナーとして、みんなで支え合う交通を目指していきたい。

### ◆今年度の学校教育について

**Q** タブレット導入時に使用するソフトや教材の選定方法は。また、学校でのWi-Fiの整備を進めるが自宅での利用などルール作りは。

**A** 授業での効果的な活用を図るためソフトや教材の機能面、操作性やセキュリティ面を重視。自宅での活用は考えていない。

**Q** タブレットの本格導入にあたり、教員へのサポートとしてICTインストラクターの増員等は。

**A** 今後GIGAスクール構想を準備していく中で児童生徒の支援にあたるICTインストラクターの増員の必要性について検討する。

**Q** 小学校でのプログラミング教育必修化について。今年度本市で実施予定の内容および教員へのサポートは。

**A** 令和2年度からは、5年生算数と6年生理科にもプログラミング教育を拡大する。5、6年生のプログラミング教育においてもパッケージをつくり、指導の面でインストラクターを派遣し支援する。



岡山 晃宏(おかやまあきひろ)議員

一括質問

## 不登校児童生徒の対応

**Q** 不登校の小中学生が通所できないふれあい教室は一ヶ所しかなく通所できない子もいる。他の地域への教室の拡充の考えは。

**A** 学校内に安心して過ごせる環境を作り、心の相談員等の専門スタッフがカウンセリングを行っている。

**Q** 民間の参入による登校扱いなどの対応は。

**A** 学校外の施設において児童生徒が相談し、指導を受け、その相談、指導が社会的な自立を目指し、適切な支援を実施していると評価できる場合、出席扱い可能となる。

**Q** 義務教育でない高校生への対応は。

**A** 教育研究センターで保護者、生徒と面談し、必要に応じて発達支援センターや医療機関等を紹介。

### ◆高校生以下の施設の使用料について

**Q** スポーツ施設では高校生以下の利用に減額制度がある。公会堂等を利用目的による減額制度はあるが、高校生以下にはさらなる減額率アップが必要ではないか。

**A** 現段階で見直しは考えていないが、全国大会などに出場する団体について応援を検討したい。

### ◆自動運転車の実証実験について

**Q** 小松駅と空港を自動運転車で結ぶ実証実験を金沢大学と連携して行うが、使用車両やインフラ整備、自動運転実現への見通しは。

**A** 実証実験は夏に2日間行い、結果を分析し、次の段階に進む。技術は日々進化しており、この技術をまちづくりに生かしていく。

### ◆広域的な観光について

**Q** 観光の地域間連携やグルメを含めた広域での観光モデルの確立を行政が主導して行う必要があると思うが。

**A** 多様化する観光旅行に対応するためビッグデータを活用し発信にSNSやAIを最大限活用する。

**Q** 駅と観光地、観光地間を結ぶ二次交通の整備が必要ではないか。

**A** 今年度策定予定の(仮称)こまつ地域交通プランの中で利便性向上について検討する。



東 浩一（ひがしこういち）議員

一括質問

小松の農林業・松東みどり学園スポーツと  
地域との共生社会・本市水道事業について

◆森林環境譲与税について

**Q** 地元材の利用促進、林業担い手確保や市の業務支援等幅広い用途があるが、活用方策について。森林管理に必要な道路網整備やドローンなどを活用した森林状況調査など、県やかが森林組合、各町林産組合と協力し実施したい。

◆農産物支援及びブランド化

**Q** 県の重点ブランド品でもある「ルビエロマン」。小松産「ルビエロマン」に対する支援策や現状は。ハウスの新設や品質向上を目的とした既存農業用ハウスのフルオープン化への改良支援を行う。  
**Q** 農産物ブランド化育成や既存のブランド品への支援について。これまで地元農産物のピュア化による商品開発などに取り組んできた。今後6次産業化の商品開発とブランド品の発信を行う。

◆松東みどり学園について

**Q** 本年11月の市内小中学校初のオープンキャンパスについて。生徒による学校紹介、キャンパスツアー、記念講演会を予定。来年以降も工夫を凝らし魅力を

継続発信していく。

◆スポーツを通じた地域との共生

**Q** 共生社会ホストタウンでの「カヌー」「ゆるスポーツ」の普及に施設整備もあるが、公共施設跡地活用での地域との共生について。共生社会ホストタウンとは、既にホストタウンとして登録済の自治体からパラリンピアンとの交流心のバリアフリーなど、共生社会の推進に取り組む自治体を国が認定するもの。保育所などの旧施設について地域特性を生かし、幅広い観点から最も有効な活用方法を検討する。

◆小松市の上下水道事業について

**Q** 本市の老朽化水道管の更新状況と、今後の更新計画は。更新は令和2年度に完了予定である。今後、実耐用年数調査などを行い、重要度、優先度を決定して進める。  
**Q** 本市の公共下水道や農業集落排水の普及率と接続率の現状と取り組みについて。下水道は普及率73・7%、接続率83・5%、集落排水は普及率90%、接続率90・2%。地元説明会、町内会へ出前講座を継続実施。



吉田 寛治（よしだかんじ）議員

一括質問

SDGsの未来都市の  
日本一を目指すことを求める

**Q** 小松の現存の図書館は古く、知の拠点となり得ていない。さらに障害者差別解消法の合理的配慮にも欠けている。小松市の老若男女、あらゆる人が楽しめる知の拠点として、また小松市の活性化においても、新しい図書館が必要である。

**A** 市では、市全体を文化と学びのキャンパスとして、共創のまちづくりを進めている。特色ある3カ所の図書館、サイエンスヒルズこまつ等でも市民の学びの場として活用されている。今後、駅の学びのゾーン「学びとライブラリー」整備計画があり、ICTを活用した情報の拠点と市民の交流・活動の場を整備する。多様な人々が交流する場所こそが今後求められる学びの場であると考えている。

**Q** SDGsの特に、環境についての取り組みはまだ甘い。小松市が主導し、官民一体となった取り組みが必要ではないか。

**A** 今後の対応として、SDGsの取り組みを市内企業に大きく展開するため、商工会議所との連携により新たな支援を行う。市内企業にSDGs宣言を行っていただき、

勉強会の開催や講師派遣等を支援していきたい。

**Q** 稚松小学校は校舎が老朽化し、各所雨漏り、洋式トイレの不備等、児童や保護者からの建て替えの要望が大きい。住民の声にもっと耳を傾けてほしい。

**A** 文部科学省は平成27年3月にインフラ長寿命化計画を策定。市としても小中学校の長寿命化計画を今年度策定する予定。計画をもとに学校施設の整備を進めていく。

**Q** 高齢者の買い物バスの支援において、商業施設の協力を得て、さらなる住民へのサービスが可能と考える。

**A** 特定の商業施設による買い物バス運行への支援は難しいが、既存バス路線への影響を考慮しながら、協議を行っていきたい。





南藤 陽一(なんとう よういち)議員

一括質問

## 子育て環境のさらなる拡充

### ◆年度途中の保育園入所の対応について

**Q** 育休後や産休後(0歳児)の年度途中の受け入れ状況と、受け入れ先を探すにあたっての本市のサポートは。

**A** 待機児童は発生していないが、「ご希望に添えなかった家庭については、こども家庭課にご相談いただきたい。また、当初予算では保育士確保など受入体制の充実支援策を計上している。

**Q** 保育園の空き情報などを一元的に確認できるツールがあれば、保護者・市・保育園の負担軽減が図れるのでは。

**A** 市のホームページでこども園等の空き状況を一覧できるようにし、保護者や園の利便性の向上が図れるようにしていきたい。

### ◆ひとり親多子家庭に対するさらなる支援について

**Q** 第3子以降の児童扶養手当を、市独自の政策で拡充できないか。

**A** 多子世帯の子育て支援策として、今年9月から市独自で2歳児を対象に保育料を無償化する予定である。

### ◆子育て世代に向けたシティープロモーション、新幹線通勤について

**Q** 北陸新幹線小松開業の機運が高まる今、本市の子育て環境をセールスポイントとして、子育て世代をターゲットとした新幹線通勤の助成を検討してはいかがか。

**A** 本市の子育て環境の強みを生かす、小松駅ならではの新幹線の需要を増やしていくことが重要である。国際空港との連結を含め、考えていきたい。

**Q** カブツキーランドに続く新たな子育て施設の構想について

**A** 現在、大人気であるカブツキーランドに続き、今後、本市のキャラクターとして活用するサンリオの「ポムポムプリン」とコラボレーションした、新たな子育て施設を検討してはいかがか。

**Q** 市では、親子で遊べる施設を整備し、若い子育て世代が住みたくなる魅力あるまちづくりに取り組んでいる。令和4年春にのしろ児童館が竣工予定。世代間交流の拠点としたい。

**A** 市では、親子で遊べる施設を整備し、若い子育て世代が住みたくなる魅力あるまちづくりに取り組んでいる。令和4年春にのしろ児童館が竣工予定。世代間交流の拠点としたい。

### ◆妊産婦医療費助成制度の導入

**Q** この制度は妊娠中にかかった医療費(保険診療の自己負担分)を助成する。妊産婦の経済的負担軽減に向け、導入を。

**A** 市では妊産婦に対して、不育治療に要する費用等の費用助成を実施。出産までの病気の予防について重点的に進めていく。

### ◆子どもの予防接種助成について

**Q** 感染症対策として子供のインフルエンザ予防接種の全額助成を。

**A** ワクチン接種で予防ができるインフルエンザに対する啓発や助成制度の周知に努めたい。

### ◆子ども食堂への支援

**Q** 安定的な運営に向けさらなる支援が必要と考えるが、見解は。

**A** 市では「こまつ100クラブ」活動助成により地域活動を応援している。子ども食堂の運営にも活用していきたい。

### ◆市営住宅入居に連帯保証人は

**Q** 連帯保証人制度を見直す民法改正を受け、市営住宅での対応を。

応は。

**A** これまで上限がなかった保証人が保証すべき保証額について、極度額を家賃の12カ月分とする予定である。

**Q** 入居者の年齢層と単身高齢者の数と割合は。

**A** 全入居者数は1,013名。45歳未満が453名、45歳以上65歳未満が177名、65歳以上の高齢者は303名。単身高齢者は200世帯余りで入居世帯の40%。

**Q** 身寄りのない高齢単身者は年々増えている。今後、市営住宅入居の際に連帯保証人を確保できない場合も想定されることから家賃保証会社の導入も検討すべきでは。

**A** 保証人を確保できないために入居できないという事態が生じないよう、家賃保証を行う保証会社を利用する方向で検討していく。

### ◆学校の多忙改善について

**Q** 教員の働き方に関する法律が改正されたが、業務削減の具

**A** 希望する学校へ校務支援サポーターを配置し、事務仕事等のサポートを行っている。

木下 裕介(きのした ひろゆき)議員

一括質問

## 安心して産み・育てられる環境の整備を!